（附録２）天保 4 年（1833）～天保 12 年（1841）仙台藩奉行・出入司・郡奉行就任者一覧

■奉行

1　大條　一家　4000 石　亘理郡坂元

大條道直（多聞、監物、是水）

・文化 11 年 5 月父道英に代わり奉職。文政 2 年 7 月今公（伊達斉義）襲封し将軍幕下へ拝謁の時に従う。文政 4 年申継、文政 4 年 2 月権大番頭、同 8 月徹山公女（登米・伊達式部村幸夫人）逝去の際使いとして伊達長門を弔問する。同 5 年 7 月権大番頭を免職、権大番頭、同 7 年 6 月申次兼近習。同年閏 8 月権若老。（『伊達世臣家譜続編』3、38-9 頁）

・天保 2 年 8 月奉行職御用。翌 3 年 1 月奉行職就任。少老の時、藩主継家に関して功あり。同 6 年子なく弟を嗣子とする。同 14 年病により辞職。明治 10 年 88 歳没。（本田勇『仙台伊達氏家臣団事典』丸善仙台出版サービスセンター　2004 年）

2　高泉　準一家　2700 石　登米郡米谷

高泉景規（源三郎、右近、木工、主計）

・寛政 6 年 5 月桂山公に始謁。享和 1 年 6 月父の死去により継家、同 2 年大番頭、文化 1 年 6 月仙台城二の丸へ落雷延焼の際伊達家の霊牌を残らず搬出し賞さる。同 8 年 12 月歳首七種会定連衆を命じられる。同 9 年 10 月 7 日権評定役を兼務。同 11 年 3 月権少老、同月英山公（伊達斉宗）に従い江戸城登城、同 14 年 3 月鷹申継を兼役。文政 2 年今公（伊達斉義、以下同）襲封へ執事労あるにつき銀子 5 枚と精綿 10 屯を拝領。同 3 年正月評定役を兼務。文政 7 年今公（伊達斉義）より執事の労として銀子 3 枚・時服 2 領を賜う。同年 10 月 19 日今公始めて政務を執るとき執事の労有りとして精綿 3 屯を下賜。同年 12 月英山公遺物の掛幅を下賜。文政 7 年正月 1 日奉行職、役料含め 3000 石（『伊達世臣家譜続編』3　66-7 頁）。

・知行地にて文政 12 年 151 戸、翌 13 年 162 戸焼失する大火が発生し復旧のため藩からの借入金を無利子にて貸し付けたほか、御裏林の杉を伐採し罹災者の救済を図った。天保 9 年 10 月 30 貫文加増されて計 3000 石となる。同 11 年正月隠居。奉行職 17 年を含め 39 年奉職。天保 15 年 8 月 64 歳で没。（本田勇『仙台伊達氏家臣団事典』丸善仙台出版サービスセンター　2004 年）

3　福原　準一家　1000 石　宮城郡高城

福原資氏（広三郎、帯刀、縫殿）　天保 12 年 10 月 65 歳没

・一門伊達淡路村好の二男。文化 4 年 8 月養嗣となる、文化 7 年 4 月申次、同 9 年 7 月権若老、同年 11 月若老兼大番頭、役料含め 1000 石。文化 10 年正月藩主の御狩に際し山奉行、同年 3 月藩主江戸城登城に供奉。同 11 年 4 月英山公（伊達斉宗）婚姻を掌して 4 月に精綿 10 屯および白銀 5 枚を賜う。同年 12 月奉行職。役料含め 3000 石となる。2 度将軍に拝謁（『伊達世臣家譜続編』3　68-9 頁）。

・文政 7 年 7 月職務精励により 20 貫文加増され 100 貫文となる。中興の祖と称される。（本田勇『仙台伊達氏家臣団事典』丸善仙台出版サービスセンター　2004 年）

4　但木　宿老　1500 石　宮城郡吉岡

但木直行（兵三郎、帯刀、淡路、山城）

文化 8 年四月継家、同 10 年紹山公の遺物二幅対掛軸を拝領。文政 1 年江戸留守居。文政 6 年 12 月仙台大火の際に屋敷が焼失、金子 7 両 3 歩を給い、同 7 年 2 月罹災のため手伝を免除される。同年 8 月馬を拝領。（『伊達世臣家譜続編』3　102-3 頁）

文政 13 年 3 月奉行職就任、天保 2 年 5 月再任、同 7 年 9 月辞任、天保 11 年 5 月 57 歳で没。（本田勇『仙台伊達氏家臣団事典』丸善仙台出版サービスセンター　2004 年）

5　遠藤　宿老　　2000 石　栗原郡川口

遠藤元良（陽之進、大蔵、文七郎、帯刀、対馬）

・江戸留守居、天保 8 年 8 月奉行職に就任。弘化 2 年 12 月辞任。

（本田勇『仙台伊達氏家臣団事典』丸善仙台出版サービスセンター　2004 年）

・天保 13 年 9 月 30 日・奉行柴多対馬（6）罷免後「遠藤大蔵殿御取切ニ相成」（「天保凶歳日記」同日条）

6　芝多　着座　　2000 石　柴田郡村田

芝多常熙（文之丞、主税、兵庫、佐渡、対馬）

文化 3 年 6 月継家、徒小姓頭、同 4 年 6 月大番頭として蝦夷地警備を命じられ、翌年 2 月 800 余名を率いて出発、10 月に帰仙し 9 代藩主・周宗から紋服と銀子 20 枚下賜。文化 6 年正月申次兼近習、文化 7 年 2 月祭祀奉行、10 代・伊達斉宗襲封の際江戸西ノ丸に供奉、元服および官位付与の際京都への使者として石清水社など代参。同年 5 月権祭祀奉行、文化 10 年祭祀奉行を免じ、文化 11 年正月権小姓頭、文化 14 年権小姓頭、文政 1 年 1 月免職。同年 9 月伊達斉宗が青根温泉入湯の際に居所の村田にて鯛を、青根温泉で塩鮎を献ず。同月用取次倹約、功により金 400 枚を賜る。同年 2 月小姓頭、同年 5 月英山公逝去の際特恩ありとして剃髪するが今公（伊達斉義）許さず。

同年 6 月伊達斉義初入府の際に供奉して金子を賜う。同年 8 月小姓組番頭。文政 5 年 11 月奉行職に就任。文政 6 年関東水道修治（御手伝普請）惣奉行として江戸出府、同 11 月その功として将軍幕下より時服 6 領と銀子 50 枚を賜う。同月伊達斉義より財用及郡村之事を掌することを命じられる。同年 12 月居宅火災の際斉義より銀 30 枚下賜。関東水道修治の褒賞として酒肴と時服 1 領、銀子 10 枚を賜う。同 7 年 1 月、前年の居宅火災について藩主より私的に羽二重 3 反と紙布 2 反を下賜。同月平賀出雲の居宅を賜い、2 月には俸禄 4 分の 1 の手伝を返される。同年 7 月乗馬 1 頭を賜う。9 月東照宮祭礼の際祭礼奉行を務める（『伊達治家記録続編』3　136-9 頁）

・天保 4 年 12 月 1 日奉行罷免、天保 11 年 6 月 26 日奉行に再役、同 13 年 9 月 30 日罷免（「天保凶歳日記」）

7　石田　着座　1000 石　黒川郡大松沢

石田寛直（定之丞、備前）

文政 3 年 8 月申継兼近習、同 5 年 6 月用取次兼祭祀奉行、同 6 年 9 月家督、小笠原流礼法を高野雅楽知哲に、柳生心陰流兵術を長谷川勇左衛門に学び目録を受ける（『伊達世臣家譜続編』3、148-9 頁）。

天保 4 年 12 月奉行職へ就任、奉職 37 年。嘉永 6 年 4 月 61 歳没。（本田勇『仙台伊達氏家臣団事典』丸善仙台出版サービスセンター　2004 年）

8　増田　太刀上　334 石

・増田菊之助繁育　増田八十次繁睦の子。文化 5 年父に代わって奉職、同年 12 月家を継ぐ。文政 4 年 12 月武頭、同 5 年 3 月権目付使番、同 6 月目付使番。嘗て北条流兵学を佐伯三左衛門是保（23）に、東條流兵学を木村衛守成信に、長沼流兵学を遠藤勘解由元長に学び、遠藤勘解由の没後は信玄流軍学を片平亘定広に学ぶ（『伊達世臣家譜続編』3　179 頁）

・天保 6 年 1 月 28 日大坂・米屋平右衛門蔵元就任の功により 10 貫文（100 石）加増、同年 10 月 20 日奉行職就任、同 7 年 12 月 15 日永代着座（「天保凶歳日記」各日条）

「増田主計（ますだかずえ）良吏。諱は繁育、菊之助と称す。栗原と号す、性廉直、桜田欽斎に学びて才学兼達す、斉宗公の側近に奉侍し、武頭より小姓組番頭、出入司に進み、百石の加増あり。天保七年二月班を進めて着座となす、尋で国老に挙げらる、此時藩政積弊多し、主計慨然之を匡救せんとす。公亦事を委任し、諸政✔革の緒に就き、将に先世の治績を挙げんとするに当たり、会々擢臣の之を拒むものあり、遂に主計の帰国を命ず、主計素志の為すべからざるを知りて江戸邸に自刃す、時に年四十

八、天保九年正月十八日なり、江戸芝高輪東禅寺中宗法院に葬る、公深く其死を悼みて金銀章服を賜ふ（碑文）」『仙台人名大辞書』

■出入司

9　林珍平　平士　150 石

・林珍平友道　寛政 4 年小姓見習・同 6 年 4 月家を継ぐ。同月公襲封の道中で奥小姓を試し、同 10 年勘定奉行を試し、同 11 年 3 月本役、200 石。同 5 月京都留守居、6 月兼大坂大本締、同 13 年 6 月兼知行割奉行、享和 2 年 9 月不時の公務で大坂へ、同 3 年 4 月大坂にて繰合方吟味役を試し、同年 11 月本役。文化 1 年郡奉行を試、同 7 月勘定所取締。同 3 年 4 月功を賞される。同 5 月郡奉行、役料含め 300 石。同 7 月旗元足軽頭兼近習、禄高 150 石に。同 8 年 9 月褒美として障泥紐を賜う。同 11 年 4 月江戸にて馬具拝領、同年 11 月郡奉行。同 13 年牡鹿郡巡視の際の功績で麻上下を賜う。文政 6 年 3 月関東水道奉行普請奉行、同年 10 月出入司、禄 500 石に。同年 11 月普請奉行の功により精綿 7 屯をたまう。同 12 月酒を賜う。(『伊達世臣家譜続編』4　150-2 頁)

・天保 4 年時点で出入司・江戸詰、天保 5 年免職（「天保凶歳日記」)。

「林子平の甥、天保 12 年 9 月 70 歳歿」(『仙台人名大辞書』)

10　森儀兵衛　平士　416 石　諸士版籍　禄高 416 石／世臣禄　禄高 516 石

・森儀兵衛常武　文化 3 年父に代わり奉職、同 6 年正月牒役、同 10 月家を継ぐ、同 9 年 4 月江戸番馬上、同年 7 月権武頭、同月城中の饗宴にて楽屋奉行、その功により褒美を賜う。同年 10 月関白鷹司家への見舞使者、同家より白銀 1 枚下賜、信恭夫人納幣の際裁判役、紀州公より白銀 1 枚を賜う。同 13 年目付使番、文政 4 年辞職。同 6 年武頭、同年 10 月郡奉行。(『伊達世臣家譜続編』3　362-3 頁)

・天保 4 年春　「郡村係り」として伊達斉邦へ「郡村等之義、存慮之趣、品々申出」て、藩主自ら倹約令を発することを献策（『伊達家文書』10)

・天保 6 年 6 月　大坂・米屋平右衛門取組を成功させる功により増田菊之助とともに禄高 10 貫文（100 石）加増、出入司に（「天保凶歳日記」)

11　小松新治　「諸士版籍」小松新治　扶持高 2 両 1 分 12 匁 5 人（『仙台叢書』)

・文政 5 年大坂大本締、文政 6 年郡奉行、文政 11 年出入司（以上『仙台市史』（旧）10)

・天保 4 年 12 月 1 日出入司罷免、天保 8 年 1 月出入司再任、300 石加増（以上「天保凶歳日記」)

※小松木工左衛門（小松新治の子）　「世臣禄」　大番士・禄高 356 石

・天保 7 年 1 月 11 日養賢堂目付、同 10 年 4 月 15 日「小松木工左衛門、亡父新治の負債を年賦とする功績を賞される（『仙台市史』（旧）10）

12　真山八郎右衛門　諸士版籍　3 貫文（30 石）／世臣禄　記載なし

・天保 4 年 12 月　原町御蔵にあった貧民手当の米穀を自分売買する廉で罷免（「天保凶歳日記」）

・「郡奉行。天保三年代官横尾半左衛門と謀りて桃生郡八反崎（中津山村）を開鑿し、北上川の迂曲線を直して神取駅を現在地に移す」（『仙台人名大辞書』）

13　長谷志津馬　諸士版籍　11 貫 618 文／世臣禄　大番士　禄高 116 石（←元々は六六石か）

・横山三郎兵衛二男、享和 3 年江戸番馬上、同 4 年正月小姓見習、文化 2 年 9 月命により奥に入る、同 5 年 5 月紹山公（伊達周宗）刀術を学ぶに侍す。同 5 年 8 月奥小姓、同 6 年 4 月公に学問を磋す。同 9 年 9 月家を承す。同 11 月評定所役人、役料 150 石。英山公（伊達斉宗）親しく聴訟の際精励として錦を賜う。文化 13 年 8 月二丸留守居。文政 1 年 3 年正操夫人（郷子／伊達重村側室・斉村生母：筆者注）仙台へ移る際の功績で褒美、文政 2 年 10 月 300 石（『伊達世臣家譜続編』4　297-8 頁）

「長谷次直（はせ・つぎなお）藩士。通称四郎兵衛または志津馬、人となり慎勤、初め慶邦公の御懐守より小姓頭兼物置締役にすすみ、安政四年四月二五日歿す。享年七十五（碑文）、志津馬の死後生前の功により安政五年九月二十九日禄五十石を其の子直温に加賜せらる」（『仙台人名大辞書』）

・天保 7 年 2 月 15 日　大橋落成するによって、長谷志津馬など賞せらる（「龍山公治家記録」『仙台市史』（旧版）10・年表）

14　真山慶治　平士　2000 石

真山慶治規輔　寛政 9 年 2 月父に代わって奉職。同年 10 月仮武頭、11 月武頭、享和 2 年 4 月仮城番、まもなく免ず。文化 1 年 10 月江戸にて仮目付使番、同 2 年正月権城番まもなく免ず、同 5 年正月家を継ぐ、文化 13 年 8 月近習、同 14 年脇番頭、文政 2 年 7 月仮小姓頭、同 5 年 6 月近習目付、同 7 年仮小姓頭。（『伊達世臣家譜続編』3　272-3 頁）

天保 15 年 9 月 16 日　奉行職（「楽山公治家記録」『仙台市史』（旧版）10・年表）

15　山崎源太左衛門　諸士版籍　録高 102 貫 613 文／世臣禄　大番士　1026 石

・平太左衛門と同一人物か・文政 7 年権目付使番もまもなく免ずる。同年 12 月権目付使

番、屋敷地は桃生郡飯野村（『伊達世臣家譜続編』3・275 頁）

・父・源太左衛門郷誼　武頭、文化 4 年蝦夷出陣、同 7 年権城番、文化 9 年 11 月権武頭、同 12 月武頭、文政 2 年 5 月病免、同 4 年佐伯三左衛門是保（23）とともに封内海浜の地理を監し、巡視の地図を作製する（同前）。

16　桜田良佐　世臣禄　禄高二六石

寛政 9 年生、9 歳で養賢堂に学ぶ。のち叔父の桜田欽斉の門に入り朱子学の研鑽に努める。文政 3 年江戸遊学。文政 8 年より佐野藩に出仕し天保 6 年まで仕える。天保 1 年伊達家大番士に登用。江戸にて北辰一刀流皆伝。天保 7 年 8 月出入司、大坂表での借財調達にあたるも、9000 両余しか確保できなかった責任をとり辞職。その後再度佐野藩堀田家で家老次席。天保 8 年 9 月に仙台帰国。安政 3 年兵具奉行兼屋敷奉行、安政 4 年 8 月講武所指南役、その後清川八郎と交際、遠藤文七郎、中島虎之助と仙台藩尊王攘夷派を形成。文久 3 年 8 月藩内の政変で茂庭家預かり。明治 2 年 3 月仙台藩議事局議長。明治 9 年 80 歳で歿（平重道「仙台藩の勤王家桜田良佐の人物と思想」『伊達政宗・戊辰戦争』宝文堂、1969 年）

17　飯沢常治　諸士版籍　なし／「世臣禄」大番士　禄高 103 石

・飯沢家　『伊達世臣家譜』および同続編への記載なし。

・嘉永 6 年 12 月 25 日町奉行（「楽山公治家記録」『仙台市史』10 年表）

18　成田才助　諸士版籍　なし／「世臣禄」大番士　禄高 44 石

詳細不明。

19　浜田進　「諸士版籍」諸士版籍　8 貫 500 文（85 石）／「世臣禄」大番士　禄高 185 石

「浜田康次（はまだ・やすつぐ）藩士、通称は初め進と称し、晩に縫殿と賜ふ。字は子恭また玉民、梅園また松廬と号す、文化 1 年周宗公に仕へて小姓となり、奥小姓を経て小納戸役に進む、天保 1 年六月小姓頭に登り、職にある事五年、出でて江戸番頭となる。能く典故を諳んじ人皆推服す、天保九年出入司となり、弘化元年再び小姓頭たり、禄百石を加賜せらる、周宗、斉義、斉邦、慶邦五公に歴事すること四十余年に及ぶ、康次博く芸術に通暁し、殊に槍術は風伝流、居合は一宮流、皆其奥義を究め、旁ら書と笛を能くす、嘉永 1 年二月二日歿す、享年六十六、仙台北山町資福寺に葬る。（碑文）」『仙台人名大辞書』）

20　男沢権太夫　諸士版籍　なし／世臣禄　男沢権太夫　大番士　禄高 48 石

・文政 11 年町奉行就任（「龍山公治家記録」『仙台市史』（旧版）10　年表）

「男沢権太夫（おとこざわ・ごんだゆー）良吏。諱は眞精、権太夫と称す。新田兵左衛門の第二子、男沢勘右衛門の嗣となる。経史を大槻平泉に学び、造詣するところあり。養賢堂助教より奉行書役に転じ、評定所役人を歴て町奉行に遷り、在職十二年、恪勤周密未だ嘗て過誤あらず、偶々年饉荒に際し獄訴荐りに興り、又疑獄の年を経て決せざるものあり、真精同僚を督励し、剖判流るるが如く、天保四年に至り、囹圄その衛を撤すること数日、実に古来未曾有の事なり、九年累進して出入司となる、十年九月二十七日歿す、享年四十七、仙台通町玄光庵に葬る（碑文）」（『仙台人名大辞書』）

21　笠原一学　平士　530 石　諸士版籍　511 石／「世臣禄」大番士　511 石

・伊達家着座・笠原家（登米郡石森）分家

・笠原一学道康　文政 3 年 10 月小姓見習、同四年父五郎七郎に代わり奉仕す、同 8 年 5 月病免（『伊達世臣家譜続編』3　326 頁）

・安政 2 年　芝多周防らとともに大銃製造掛任命（「楽山公治家記録」『仙台市史』（旧版）10 年表）

※笠原全康（十吉／幕末期の出入司、参政）の父親か〔『登米郡史』上巻（復刻版　名著出版　1972 年）人物編「笠原全康」の項目〕。

22　玉虫勇蔵　諸士版籍／「世臣禄」大番士　172 石

文政 1 年御小姓、天保 1 年 10 月 20 日穣三郎様御遊相手、同年 10 月評定所役人仮役、同 3 年評定所役人、天保 9 年 8 月 28 日町奉行、天保 11 年 7 月 15 日出入司、安政 2 年 12 月 4 日出入司御役御免、同 6 年 9 月 9 日町奉行、文久 1 年 10 月 28 日隠居、元治 1 年 12 月 20 日 59 歳没（玉虫久五郎「玉虫勇蔵略年譜」『仙台郷土研究』24-1　1964 年より抜粋）。

「玉虫勇蔵／諱は崇茂、字は子広、通称勇蔵、緑園と号す、詩書を能くし、当時の文人間に名あり、仕えて町奉行に至る。元治元年十二月二〇日没す、享年五十九、仙台三百人町保春院に葬す、玉虫左太夫はその弟なり」（『仙台人名大辞書』）

23　佐伯三左衛門（善太夫・是保）。　平士　339 石

佐伯久之丞是用の子。文化 10 年 3 月父に代わり奉職。同 11 年 7 月権兵具奉行、同 14 年 11 月家を継ぐ。同 12 年 2 月武頭、同 4 月権兵具奉行。文政 3 年 4 月今公（伊達斉義）初めて襲封の際先導をつとめる。同 5 月武頭方取締・人繰方、同 4 年 2 月目付使番、8

月免。文政 6 年 9 月権勘定奉行、同 7 年 6 月武頭。一旨流槍術を高橋丈之進、謙信流軍学を内海亘成美に、信玄流軍学を片平亘定広に、北条流軍学を大枝監物道英（1 の父）、東條流軍学を芝多佐渡信憲（6 の祖父）に学ぶ。(『伊達世臣家譜続編』3　425-6 頁）

・江刺郡高寺村に知行地・屋敷地、文政 12 年より一関田村家の財政担当にて江戸詰、天保 7 年正月町奉行仮役、目付、天保 9 年春郡奉行「佐伯是保風俗等書上」(『伊達家文書』9)

・仙台藩儒学者・桜田欽斎の門人（『源貞氏耳袋』13、史料番号 23「桜田欽斎より増田主計への書状」）

24　引地九右衛門　　「世臣禄」大番士　30 石

・天保四年考役、同年 12 月米穀自分売買貧民救済米を売却したとして牢舎、天保 11 年大坂借金不弁につき罷免、天保 12 年 1 月芝多対馬大坂出向の際に再役（「天保凶歳日記」)。

25　尾崎善左衛門　「世臣禄」大番士　124 石

・『伊達世臣家譜』　尾崎家の記載なし。

安政 1 年 5 月 23 日町奉行（「楽山公治家記録」『仙台市史』10　年表）

（別所万右衛門記録に登場しない人々）

※1　中目義衛門　世臣禄　93 石

・天保 5 年「金穀御備立等三ヶ条之留」(『宮城県史』31）に出入司として連署。

・「中目安堅（なかのめ・やすかた）　藩士。通称義衛門、牧馬の事に任じて功あり、官高からずと雖も吏事に服して下僚の心服を得、嘉永五年十月六日歿す、享年七十九、仙台北八番丁江厳寺に葬る。△子寛之丞安深、仕へて出入司となり、当時能吏を以て称せらる。」『仙台人名大辞書』

※2　水野八五郎　平士　364 石

・天保 5 年　「金穀御備立等三ヶ条之留」(『宮城県史』31）に出入司として連署。

・水野八五郎定倫　児小姓、寛政 2 年隠居後の七代藩主伊達重村の小納戸、同 8 年 7 月免職。同 10 年 9 月目付使番、文化 4 年 2 月家督。文化 7 年 4 月近習目付、同年目付使番を掌り国用之事を省く功により白銀一枚下賜。文化 8 年 2 月物置ト役。文化 14 年小姓頭、役料含め 500 石。文政 2 年 6 月 10 代藩主伊達斉宗死去に際し剃髪、11 月免職。子供の俊平に家督を譲るも文政 5 年 3 月同人病死につき、江戸番頭へ。役料含

め 500 石。文政 7 年正月出入司。嫡孫十之丞を家督とする。(『伊達世臣家譜続編』三、405-6 頁)

・「水野定倫（みずの・さだとも）藩士。八五郎と称す。年甫めて十五、児小姓に挙げられ、累進して近習目付、江戸番頭、出入司、小姓頭となり、天保二年数十年間の勤労を賞して禄百石の加増あり、同十一年六月四日歿す、享年七十三、仙台荒町仏眼寺に葬る」(『仙台人名大辞書』)

※水野十之丞　「世臣禄」大番士　464 石

■郡奉行

26　若林三郎左衛門　平士　400 石

・若林三郎右衛門友輔　文化 12 年 4 月父に代わり奉職、同 14 年家を継ぐ。文政 3 年 12 月小姓、同五年 6 月奥に入、同月目付使番に転ずる。同年 11 月公（伊達斉義）狩猟の際山目付をつとめる

・天保 4 年郡奉行、同 5 年 2 月罷免（「天保凶歳日記」）

・嘉永 5 年 5 月 28 日　町奉行（「楽山公治家記録」『仙台市史』10　年表）

「若林友輔（わかばやし・ともすけ）良吏。通称修理、諱は友輔、字は済美、靖亭と号す、初名は鴻、字は鵠之、柳村また浣花堂と号す、通称は亀吉、後三郎左衛門と改む、慶邦公名前を修理と賜ふ、弱冠にして斉義公に仕へて小姓となり、斉邦、慶邦二公に歴事して郡奉行、町奉行となり、小姓頭より江戸番頭に累進し、政事取次を兼ぬ、班を進めて番頭格となり、更に大番頭に進む、資性謹厳剛直、屢々封事を上り、又有志と事を論じ、合わずして其職を黜けらるるもの三たび、幾くもなく又進用せらる、論者故に曰く、進んで政を国に為し、退いて学を家に講じ、三黜三陟去就を辞せず、志を得れば民と之に由り、志を得ざれば独り其道を行ふもの、惟若林某ありと以て其人となりを知るべし、慶邦公多年の勤労を賞して禄百石を加賜す、友輔辞して曰く、臣の微功何ぞ百石に値せん、請ふ之を以て他の功臣に加賜せよと、公其言を嘉し、賜に名工明珍作の金兜を以てす、友輔幼より学を好み、桜田虎門、志村五乗、大槻平泉等に就きて経史を学び、造詣頗る深し、殊に史学は其尤も長ずる所なり、緒余詩を善くす、其職を辞するや、僧南山、大槻磐渓、森井月艇、油井牧山、大槻習斎、小野寺鳳谷等、当世の名流と詩酒公驩す、著に皇朝名臣伝賛正続五十巻、桂林一枝五巻、正説群記百余巻、浣花堂詩鈔、靖亭詩文稿若干巻其外数種あり、官暇禅を大年寺無底禅師に説いて、大いに省悟する所あり、慶応三年正月廿四日没す、享年六十九、仙台小田原万寿寺に葬る（碑文）友輔の皇朝名臣伝賛を編ずる、尤もその精力を傾注する所にして、其稿を脱するや、之を公府に献じ、慶邦

公嘉納、物を賜うて其編摩の労を賞す、当時詩あり、曰、

余類次皇朝名臣行状墓碑等。三十年所矣。今始脱稿。恭設薄奠。香沐致祭。詩以代文。

謝客下帷経幾秋。嘗嗟往事附東流。

寒燈耿々光将滅　逸史茫々功半収

孔子豈須求海外　忠臣邇見遍神州

焚香奠酒拝黄巻　千載幽魂来享不。」(『仙台人名大辞書』)

27　伊東太輔　諸士版籍　なし／世臣禄　大番士　禄高 35 石

・天保 2 年町奉行（「龍山公治家記録」『仙台市史』10 年表）

・天保 4 年 12 月 1 日町奉行罷免、天保 5 年 1 月郡奉行就任、同 2 月罷免（「天保凶歳日記」）

・天保 14 年「他所町人相手ニ付、町々寄合を企金主引付、大金御借入相弁候由を流布し、内々其筋を取受相成候様、重役手前へ冶定取組相決、御財用方御手段替相成候由世上申触」が不都合として訖度仰付、安政 1 年出入司、その直後に再度前述の金融を企図するとして逼塞（『『源貞氏耳袋』11　史料番号 39・41）

・「伊東祐道（いとう・すけみち）藩士。字は子成、通称太輔、茹堂と号す、奚疑また一枝は其の別号なり、仕へて町奉行、出入司となり、常に剛直を以て称せらる、学問該博にして尤も易学に通じ、考経釈義の著あり、子女数人、長女は黒澤翠峨に嫁し、永沼柏堂は其の三子なり、安政六年八月二十三日没す、享年六十五、仙台堤町日浄寺に葬る（碑文)」(『仙台人名大辞書』)

28　服部伊左衛門　平士　107 石　諸士版籍　なし（脱漏か）／世臣禄　大番士　禄高 107 石

・服部伊左衛門次致　文政 7 年正月家を継ぐ、文化 7 年 5 月より評定所留付加勢、郡方高分役、越河之封人、郡方横目、赤子養育方之役人。(『伊達世臣家譜続編』4　353-5 頁)

・天保 5 年 1 月郡奉行、同 7 年 8 月穣三郎様（伊達慶邦）御附人（「天保凶歳日記」）

・天保 5 年 3 月　伊達斉邦挨拶書控「(服部）伊左衛門義者、手元にても召遣、人物之程も試候処、郡村之義委敷心得候様子ニ相見得、其方共（奉行衆／筆者注）も撰挙申聞候事ニ而…」(『伊達家文書』10　史料番号 3428)。

29　桑嶋四郎兵衛　召出　300 石

・桑島四郎兵衛広次　文化 7 年 6 月父に代わり奉職、同 10 年 3 月家を継ぐ。文化 7 年

牒役、同 11 年 2 月病免。文化 9 年 7 月権武頭も、故あって蟄居、同 9 月免ず（『伊達世臣家譜続編』3　210-1 頁）

・「桑島広次（くわしま・ひろつぐ）藩士。通称四郎兵衛、養賢堂目付より累進して郡奉行、小姓組頭、鷹匠組頭となり、尤も騎技に巧なり、文久二年六月十九日没す、享年七十、仙台新寺小路洞林寺に葬る。（碑文）」（『仙台人名大辞書』）

31　横沢英記　平士　511 石

・横沢英記行高　文化 4 年 8 月父に代わり仕える。同 9 年牒役、のち権武頭、同 12 年 8 月江戸番馬上、文政 3 年 6 月家を継ぎ、権目付使番。同 4 年 4 月武頭、同年 9 月目付使番、6 年 6 月道中人馬運転の功により精綿 3 反をたまう。同年 10 関東水道修治勤労につき時服 2 領と白銀 10 枚を賜う。文政 7 年 10 月近習（『伊達世臣家譜続編』330-1 頁）

・天保 5 年 2 月郡奉行、天保 7 年 8 月目付へ転役（「天保凶歳日記」）

32　熊沢龍之進　平士　320 石　諸士版籍　32 貫文／世臣禄　大番士　禄高 302 石

・熊沢龍之進安隆　文化 9 年 6 月父に代わり奉職、同 10 年 8 月帳役、11 年 7 月節倹のため免役。文政 3 年正月武頭。5 年閏 1 月白石城普請奉行、同年 8 月父安昔引退、安隆家を継ぎ、11 月今公（伊達斉義）に御礼。同 6 年 3 月関東水道修治の時普請奉行添役、7 年 7 月目附使番に転役。同 10 年 12 月 6 日普請奉行勤労を賞して酒を賜う。（『伊達世臣家譜続編』3　444-5 頁）

・天保 5 年 2 月郡奉行（「天保凶歳日記」）

33　菅井三郎太夫　平士　150 石

・三郎大夫国広・佐藤林七二男、文政 2 年閏 4 月評定所留付加勢、3 年 9 月本役、文政 8 年正月郡方横目として専ら赤子養育方のことに与る。同年 2 月家を継ぐ（『伊達世臣家譜続編』4　106 頁）

・天保 8 年 3 月、登米郡登米邑主・伊達長門宗充（一門）領の村方での救済を、宗充と代官・白石昇（升、39）と「打合」ながら実施（『伊達家文書』10、3433 号史料）

34　伊庭宗七郎　平士　300 石

・宗七郎延栄　新陰流刀術を狭川新之丞将長より学ぶ(『伊達世臣家譜続編』3　496 頁)。

・天保 7 年 8 月代官、同　年郡奉行（「天保凶歳日記」））

・父・伊庭九内知恒は文化 3 年蝦夷地出兵、9 年 4 月武頭、7 月目付使番、10 年 10 月

増上寺防火、11 年 3 月権郡奉行、12 年 2 月郡奉行本役、同 4 年 2 月目付使番（同右書）

35　鈴木善之進　　諸士版籍　8 貫 020 文／世臣禄　大番士　禄高 80 石

・文政 13 年代官か（栗原郡一二迫大肝入・熱海家文書「定留」東北歴史博物館所蔵）

36　佐藤助右衛門

・大町一丁目古手・呉服商佐藤助五郎

・天保 3 年 7 月御番組入、天保 7 年 8 月御買入米方御用係、同 11 月勘定奉行・津奉行引切・両替所御救助方、天保 11 年正月御繰合方吟味役仮役、同年 10 月郡奉行・荒所起返方御用係・津奉行・鋳銭方御用兼役、天保 12 年 2 月金山方御用係（仙台市博物館所蔵・三原良吉コレクション／菅野正道氏より翻刻提供）

・天保飢饉時の他領米買い付けや万人講、松皮餅製法の伝授など実施「お助け様」と呼ばれる（『仙台市史』通史編５近世３　117-8 頁）

37　荒井東吾　諸士版籍　なし／世臣禄　大番士　禄高 29 石

・文化 9 年「卑役」、 天保 2 年 2 月 18 日「赤子教導役」を拝命、藩領南部での生活教諭にあたり、「赤子養ひ草」を著す。天保 4 年 10 月代官退役、天保 5 年 1 月 27 日御郡方吟味役、同年 2 月 11 日退役。天保 8 年 8 月柴田・刈田郡代官、同年 11 月西磐井・下胆沢郡代官、天保 11 年山林奉行、天保 11 年 10 月 28 日（南郡）郡奉行、天保 12 年 1 月 25 日郡奉行免職、「再三御役御免願ひ申上奉り、御役御免成下され候」（安政 2 年「上書」『翻刻荒井宣昭選集』）、名取郡増田（宮城県名取市）に退去し私塾経営・史籍収集を行う（『仙台人名大辞書』）、嘉永 6 年 1 月奥郡郡奉行（『気仙郡大肝入吉田家文書』3）、 安政 1 年 8 月出入司（同前「上書」）、安政 3 年 8 月「三ヶ度御役御免申上奉り早速下仙　御役御免成し下され」、 安政 4 年 10 月「老を以て職を辞」す。意見書 21 点が現存（佐藤大介「天保飢饉からの復興と藩官僚―仙台藩士荒井東吾「民間盛衰記」の分析から―」『東北アジア研究』14、2010 年予定）

38　古山七左衛門　諸士版籍　なし／世臣禄　大番士　禄高三六石

・天保 5 年 1 月郡方吟味役、同年 2 月病気逼塞、天保 11 年 10 月郡奉行、天保 12 年 9 月出入司も直後に罷免、郡奉行に再役（「天保凶歳日記」）

・天保 11 年（1840）に桃生郡深谷の荒所開発を出入司・佐伯三左衛門（23）に上申、奉行・大條監物（１）より「宜敷勘弁」として許可。起返役所を設置して推進するも、

天保 14 年（1843）に御不断改に転役、起返役所も廃止となり事業は中止に（「古伝秘録」『日本経済大典』28 所収）

39　白石升　諸士版籍　3 貫 985 文／幕末期　大番士　禄高 39 石

・天保 5 年 1 月郡方吟味役、天保 11 年郡奉行（「天保凶歳日記」）

・天保 8 年 3 月、登米郡登米邑主・伊達長門宗充（一門）領の村方での救済を、宗充と郡奉行・菅井三郎太夫（31）と「打合」ながら実施（『伊達家文書』10、3433 号史料）

・白石頴達（しらいし・えーたつ）藩士。諱は達、字は頴達、初諱は静、一字は子升、町堂と号し、通称を登という。幼にして孝友、長ずるに及びて学を好み、大略ありて小節に拘らず、壮にして卑役に挙げられ、郡横目より代官に転じ、天保七年の大飢饉に際し、藩権に郡吟味役を置く、是に於いて選ばれて郡吟味役となり、復た代官となり、前後施設するところ善政すこぶる多く、部民これに懐く、十一年越えて郡奉行兼津奉行となり、翌年の春部内を按検して終に病を得、与して帰る、人甚之を危めども、談笑常の如く、座を起ちて嘆じて曰く、吾未だ我が職を尽くさず、豈に徒に死すべけんやと終に言其私事に及ばず、常に清廉潔白を以て称せらる、天保十二年十月五日歿す、享年五十四、仙台北八番丁満勝寺に葬る（碑文）」（『仙台人名大辞書』）

（「天保凶歳日記」に登場しない郡奉行）

※３　中津川武蔵　禄高不詳

・文政年間に財用方の考役を務め、『御財用方全体之義等品々御奉行衆被御聞届取調十ヶ条申達候留』として藩財政見積もりを提案〔『仙台市史』通史編 5 近世 3　65 頁、「御財用方」は本庄栄治郎ほか編『近世社会経済叢書』（改造社　1925 年）に所収〕。

※４　金須長八郎　禄高不詳

・詳細不明

※５　小野貞蔵　平士　136 石

・文政 7 年家督。

・小野家は 2 代藩主伊達忠宗の寛永 21 年に宮城郡小田原に 36 石を給付。父・定左衛門弘道の代には禄高 64 石、明和 6 年 5 月家督後代官、人足方横目、肴蔵役人、出入司留附を経て享和 1 年作事奉行・屋敷奉行を試される。享和 2 年 4 月本役。享和 3 年正月郡奉行、役料含め 300 石となる。勘定奉行および作事奉行、屋敷奉行をつとめ、文化 1 年 6 月出入司、役料含め 500 石。文化 10 年 2 月数年の勤労により 70 石加増。（『伊

達世臣家譜続編』4　218-9 頁）

※6　湯目幸三郎　召出二番座　491 石

・寛政 11 年家督、文政 3 年小姓見習、文政 7 年 7 月小姓組（『伊達世臣家譜続編』3　214 頁）

（参考文献）

禄高

・注記のないものは『伊達世臣家譜続編』（宝文堂出版販売　1978 年）各家の項による。

・「諸士版籍」／「仙台府諸士版籍」、『仙台叢書』6（仙台叢書刊行会　1922 年所収）

・「世臣禄」／「伊達家世臣禄」（『仙台藩歴史事典』仙台郷土研究会　2002 年所収）

履歴・業績

・菊田定郷『仙台人名大辞書』（仙台郷土研究会　1929 年）

・『仙台市史』（旧版）10（仙台市　1959 年）

・『大日本古文書　家わけ第三　伊達家文書』（復刻版　東京大学出版会　1969 年）

・『伊達世臣家譜続編』（宝文堂出版販売　1978 年）

・坂田啓編『私本仙台藩士辞典』（創文出版　1995 年）

・本田勇『仙台伊達氏家臣団事典』（丸善仙台出版サービスセンター　2004 年）。

・『仙台市史』通史編 5 近世 3（仙台市　2004 年）

・『源貞氏耳袋』全 13 巻（「源貞氏耳袋」刊行会　2007-8 年）